

地域包括ケア病床とは・・・

地域医療連携室 連携室長 佐々尾 航

地域における在宅療養を支えるためのベッドです。12名まで入ることができます。

入院される患者さんは、おもに以下の方です。

① 急性期治療が終了した方で、リハビリが必要な方

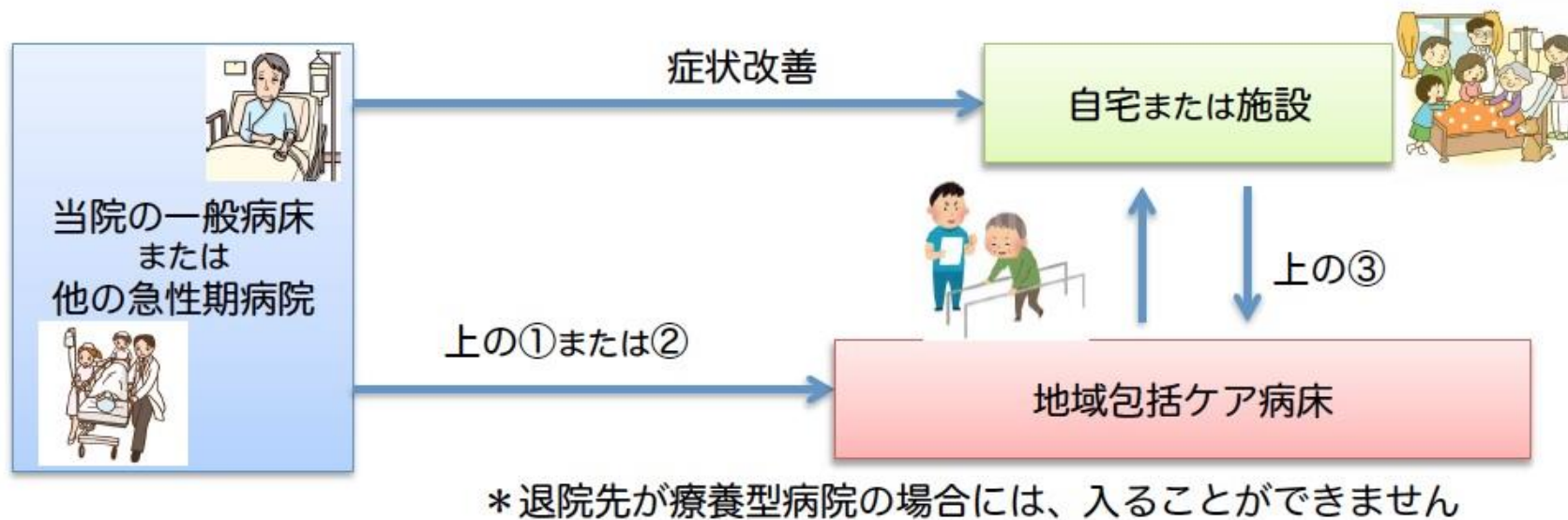
当院や、他の病院で急性期の治療が終了したものの、リハビリの継続が必要と考えられる患者さん

② 急性期治療が終了した方で、退院の準備が必要な方

当院や、他の病院で急性期の治療が終了したものの、自宅や施設への退院にむけた調整が必要な患者さん

③ 在宅療養中の方のレスパイト入院（介護者支援短期入院）

介護されている方の急病や急用、一時的な休息等のために、病院で在宅療養中の方をお預かりします



春夏秋冬

編集

道立羽幌病院
サービス向上委員会

院外報部門

第 42 号

この国の医療制度は大きな転換期を迎えようとしています。団塊世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて各自治体が「地域包括ケアシステム」と呼ばれる、地域における医療・介護・福祉の連携システムを作るように提唱されています。「ときどき入院、ほとんど在宅」と言われるように、できるかぎり在宅で生活することを目標に、医療機関を始め行政や福祉施設、あるいは患者さんや家族で努力していかなければなりません。

その中で、道立病院では地域包括ケアシステムの拠点となる病院として、6 月から「地域包括ケア病床」の運用をはじめました。病気の急な時期を乗り越えて、退院までに自宅の整備が必要な方、リハビリが必要な方、あるいはこれまでのレスパイト目的の方に入院していただくことができる病床です。当院は急性期病院という役割の病院で、すべての患者さんの病院にいられる日数は平均して 21 日以内と決められていますが、今回新たに開始した病床は最長 60 日まで可能となります。費用は急性期病床よりもやや高くなります（ただし、高額療養費制度などにより負担はほぼ変わりません）。長く入院する目的は、「自宅へ帰る」ために周囲の環境などを整えたり、リハビリになりますので、転院する患者さんや病状により退院できない患者さんは対象になりません。

この病床は 12 名までで限りがあり、また様々な条件があり希望される方全てが入院できるものではありませんが、地域の皆さんに役立つように運営いたします。同時に当院では退院支援として看護師や社会福祉士がついて、退院後のサービス調整などにケアマネなどと連絡を積極的にとっております。ご不明な点は当院地域医療連携室にお尋ねください。

病棟薬剤師が始まりました

薬剤師 植野 秀章

みなさんはこの病院にも薬剤師がいることをご存知でしょうか？「いつもかかるけど、薬局でお薬を貰うし…」というように、病院に通われている患者さん方もなかなかお会い出来ないの、ご存じない方も多いかと思います。実は今まで安全な医療の提供のために、縁の下の存在として医師や看護師など当院で働くスタッフを手助けしてきました。そしてこの度「病棟薬剤師」として、より患者さんの近くで、積極的なお手伝いをさせていただくことになりました。

入院をしたとき、家でどのようにしてお薬を飲んでいたのかや、どんな病気でどんな病院からお薬を貰っていたのかなど、

患者さんから「お薬」に関わることを伺い、良い治療（例えば、いらぬ薬を辞めたり、飲みやすい薬を選んだり）が出来るように病院スタッフと協力していきます。お薬だけに限らず、何でも気軽に声をかけて下さい。



地域医療の必要性

東海大学医学部卒業
市立旭川病院 臨床研修医 柴田 進

今回、北海道立羽幌病院で地域実習を行いました。当初、僕が想像していた医療とは違い、たくさんの手技や症例を経験できました。虫刺されからのアナフィラキシーを経験したのは、いまでも鮮明に覚えています。また、いままで救急外来しか経験がありませんでしたが、初診や継続外来、巡回診療は非常に貴重な経験でした。そして、自分の知識不足を痛感して、さらに勉学に励むことができました。地域の限られた資源・人材のため、行える医療は限られています。中には専門の治療が必要になる場合があり、初期医療、救急搬送の判断が重要だと感じました。地域医療で経験したことを、今後の自分の医療に生かしたいです。

「ふまねっと」初体験！

3階病棟 看護師 成田 亜紀子

7/23 看護協会会員懇談会があり苫前町社会福祉協議会主催による認知症予防講座で『ふまねっと』の体験をしました。四角のマス目の中を歩く運動ですが、マス目を踏まない・太ももをあげ手拍子をする・ステップを正しくと要求されるため、頭の中は”ゴチャゴチャ”体は”ギクシャク”と何とも滑稽な感覚です。身体と頭が同時にできる歩行運動で、これまでの研究では継続することで高齢者の認知・歩行機能改善効果があると報告されています。講座では、身体機能が低下した人になりきる用具を装着してみたの歩行や、その人をどのように介助したらいいかの学びもありました。最後は「きよしのズンドコ節」に合わせての『ふまねっと』、頭と身体をフル回転です。みんな笑顔で楽しい時間を過ごすことができました。



<お知らせ>

当院では、
患者様、ご家族様からジュース、菓子等のお心付けは一切受け取れません。
ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

旭川医大看護学生早期実習Ⅱで 天売島に行きました

副院長兼総看護師長 渡邊育子

旭川医大看護学生早期実習Ⅱの実習で7月19日に、学生の引率ではじめて天売島に行きました。当日は、あいにくの雨で高速船は少々揺れましたが、5名の学生は船酔いもせず、元気に天売島に到着できました。私たちは、天売診療所や消防支所及び役場の方々から島での生活について貴重な情報を得ることができました。学生との事前学習では、島では物価が高く、交通手段もフェリーと漁船であり、離島のハンディキャップを抱えながらの生活は、医療の面でも大変だと考えていました。しかし、実際には、町民の方々で医療インフラに対する強い不満をお持ちの方は少ないと感じました。「実際、困ることは、歯科医が島にいないため歯が痛くなったときの処置くらいです。」と話される方もいました。島民の方はとても明るく親切で、我々が考える以上に島での生活に満足されていることを知ることができました。貴重な体験をありがとうございました。



5月13日看護の日を開催しました

副総看護師長 加藤 美喜子

ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は「看護の日」に制定されています。当院でも「看護の心をみんなの心に」をテーマに看護の日を開催しました。今年は、手洗い体験で洗い残しを確認していただいたり、普段食べているパンが、ご飯茶碗でどのくらいに相当するのか。それを消費するにはどのくらい運動するのかを展示しました。試食コーナーや、ささやかな記念品を準備して、沢山のかたにご来場いただきました。来年も心に届くようなイベントを準備して、みなさまのお越しをお待ちしています。

～ブログ 続いています～

羽幌病院のことをより知って頂くため、病院や羽幌町の情報を提供するブログを作成しています。是非、ご閲覧ください。

北海道立羽幌病院のブログ
<http://blog.livedoor.jp/haborohp/>

患者－医療者パートナーシップ

～当院では患者－医療者パートナーシップ宣言の強化に努めます～

- 医療の主役は患者さまです。● 私たち医療者は、患者様の病気の診断・検査・治療計画について、十分な説明をします。
- その上で納得して医療を受けられるように支援いたします ● わからないことは何でも、お気軽に相談して下さい。